

平成26年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）

				整理番号	2 - 3 - 1
事務事業名	災害対策事業			担当課係	市民安全課
総合計画上の位置付け	大項目	1. 「安全」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	①災害被害の減少		内線等	
	小項目	5. 災害からの早期復旧		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	9	消防費	項	1
	目	4	防災対策費	事業	4
開始年度	平成 12	年度	根拠法令・要綱等	災害対策基本法、小松島市地域防災計画	

■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 全市民
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 南海トラフ巨大地震等の大規模地震やそれに伴う津波から生命を守ることはもとより、集中豪雨による土砂災害や河川氾濫等あらゆる災害を想定し、防災訓練、防災講話を実施することで、市民の防災意識と自助・共助力を高める。
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 防災訓練や防災講話等を実施し、市民への防災意識の高揚を図るとともに、長期的な避難生活などに対応することを目的として、備蓄食料等を購入する。平成26年度においては、台風11号、12号の大雨により被害を受けた世帯への助成や冠水等に対する災害対応を行った。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 他の事業も効果的に活用し、市内小中学校及びその他の避難施設等に対し、計画的に防災倉庫、資機材等の配備や飲料水等の備蓄を行っている。

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名				指標の説明				指標化できない成果
		防災訓練・防災講話実施回数				実施した回数				
成果指標	単位		H25	H26	H27	H28	将来目標 (年度：平成)	自主防災組織や地区住民・学校・各種団体の方等を対象に防災訓練を行ったことで、向上した防災・減災力など		
	回数	目標	26	26	26	26				
	実績	30	42							
	達成度	115.4%	161.5%							
活動実績・参考となる指標	指標名		単位		H25	H26	H27	H28	指標の説明	
	防災訓練実施回数	回	計画						防災訓練を実施した回数	
			実績		11	31				
	防災講話実施回数	回	計画						防災講話を実施した回数	
			実績		19	11				
	購入備蓄食料数（アルファ米）	食	計画						備蓄食料（アルファ米）の購入食数	
			実績		8,600	10,200				
	購入備蓄食料数（ビスケット）	缶	計画						備蓄食料（ビスケット）の購入缶数	
			実績		3,168	3,696				

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		25年度決算	26年度決算	27年度決算	26年度予算	
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	3,196,557	11,038,422	0	11,319,000
		財源内訳	2,000,000	4,155,000		
		地方債	0	0		
		利用者負担	0	0		
		一般財源	1,196,557	6,883,422		
		B 人件費 ①×②	589,802	581,668	0	
		職員平均人件費① 従事した割合②/人	5,898,016 0.10	5,816,682 0.10		
A + B		3,786,359	11,620,090	0		
単位コスト	活動指標の説明		防災訓練・防災講話実施回数	防災訓練・防災講話実施回数	備考	
	活動指標1単位当たりコスト		126,212	276,669	平成25年4月1日現在 人口40,733人 平成26年4月1日現在 人口40,333人	
	市民一人あたりのコスト		93	288		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 徳島県相互応援連絡協議会により備蓄方針が示されたことにより、今後はこれに沿って、必要な備蓄を進めていく必要がある。徳島県市町村振興協会の住民を守る震災に強いまちづくり事業助成金を有効に活用して事業を実施しており、平成26年度以降においても制度を活用し備蓄を進めていく。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 家庭等において個々に行う防災対策を含め、防災に関する基礎的知識の習得に関する要望や避難所(食糧等の保有数や保管場所等)について要望がある。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント(具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	東日本大震災以降、市民の防災に対する関心は非常に高くなっており、防災訓練や防災講話の実施により、更に防災に対する意識の高揚を図ることが必要である。
	<input type="checkbox"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="checkbox"/> ① 市が行わないといけない	自主防災組織や自治会等が中心となり、各団体主導で防災訓練等が実施されているが、一定の防災に関する知識が必要とされることから、市との連携により実施されることが望ましい。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="checkbox"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> ① 効率的である	防災訓練の支援、防災講話等については、市職員で対応している。また、食料等の備蓄についても、徳島県市町村振興協会による助成金を効果的に活用して購入しており、効率化を図っているものと考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="checkbox"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	南海トラフ巨大地震に係る被害想定が、平成25年7月及び同年11月の2次にわたり県から公表された。本市においても甚大な被害が想定されていることから、南海トラフ巨大地震等の大規模災害に対応するため、備蓄をさらに進める必要がある。
	<input type="checkbox"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="checkbox"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="checkbox"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="checkbox"/> ① 成果が上がっている	市民から防災に対する相談も増加しており、また、防災講話や防災訓練等の実施数も増加し、一定程度の成果は上がっていると考えている。また、食料等の備蓄についても、市による備蓄と併せて、個人での備蓄に係る啓発活動も必要と考えられる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="checkbox"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	防災訓練及び防災講話を通じて、市民の自助・共助力のさらなる向上を促す。また、飲料水、食糧、生活必需品等の備蓄数のさらなる充実を図り、長期の避難生活に対応できる体制を確保することが求められる。	

■一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	2	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定 評価点 79 2	判定に至った理由 補助金等を効果的に活用しながら、計画的に食料等の備蓄を進めるとともに、防災訓練や防災講話の内容の充実を図る必要がある。
		2 現状のまま継続する	60~79点		
		3 改善・効率化し継続	50~59点		
		4 見直しの上縮小する	40~49点		
		5 終期設定し終了	30~39点		
		6 休 止	20~29点		
		7 廃 止	19点以下		

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	2	1 拡 充 す る	判定説明 防災訓練、防災講話の実施や避難所における食料等の備蓄は、いずれも市民の安全・安心に資する事業であり、今後も更に創意工夫し、事業を充実していく必要がある。
		2 現状のまま継続する	
		3 改善・効率化し継続	
		4 見直しの上縮小する	
		5 終期設定し終了	
		6 休 止	
		7 廃 止	